はじめに

保健環境研究所がスタートして早や１年が過ぎました。この１年間は施設・機器類の整備をしながら、もう一方では研究所と各保健所、本庁を結ぶ電子メールの使用を始めましたし、市民学習室「まもるーむ福岡」での保健・環境に関する情報の発信にも力を入れてまいりました。

このような新しい取り組みの他に定例的な事業や新たな研究にも取り組むべく努力してまいりましたが、思うに任せない面もあったようです。

最近大きくクローズアップされてきた問題に、外因性内分泌攪乱化学物質いわゆる環境ホルモンがあります。地球上の生命存続に危機をもたらすおそれがあるとして指摘されており、国際的な協力も始まり、環境庁、厚生省も実態調査を始めたところです。当研究所もまずダイオキシンの測定に取りかかるべく情報の収集、機器の整備、技術の修得にとりかかっているところです。この問題を解決するには大気・水・土壌などの自然環境から、生命体である動物・植物全ての実態把握が必要ですし、さらにホルモンの作用機序というような生命現象に関する知識の動員も必要です。これは、地方自治体の研究機関が単独で取り組めるほど簡単なものではなく、国も各自治体研究機関も協力し、インターネットなどの情報・通信手段を駆使して知見の共有を図るべきだと思います。

このほかにも酸性雨・地球温暖化の問題、残留農薬など食品の安全性の問題、新興・再興感染症や抗生物質耐性菌など、取り組まねばならない問題は山積しています。

また、得られた知見は市民に分かりやすい形で情報として提供していかねばなりませんので、本年度からインターネットに研究所のホームページを開いて、より広い範囲で情報の収集・発信の輪に加わろうと考えているところです。

この所報は、平成９年度に行った事業の概要と調査研究の成果を取りまとめたものです。関係各位にご高覧いただき、ご批判・ご指導を賜れば幸いです。

平成１０年７月

福岡市保健環境研究所

所長　大田耿三